

## 一般乗合バス(路線バス)の運賃改定について

関東自動車株式会社(本社:栃木県宇都宮市、代表取締役社長:吉田 元)は、2023年7月1日を実施予定とした一般乗合バス(路線バス)の運賃改定について、本日、国土交通省 関東運輸局に一般乗合旅客運送事業の上限運賃(※)認可申請を行いました。

日頃よりご利用のお客さまにはおかれましては、何卒諸事情ご賢察の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

申請理由及び申請内容につきましては以下の通りです。

※上限運賃とは、事業の経営に必要な原価に応じて算出されるバス事業者が収受しても良いとされる運賃の上限額です。それに対し、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する、実際にお客さまから収受する運賃を実施運賃と言います。

### 1. 申請理由

関東自動車では、消費税率の改定や一部エリアでの軽微な運賃改定を除き、1997年5月以降、約26年という長期にわたり運賃を変更することなく輸送サービスの提供に努めてまいりました。路線バス事業は少子高齢化や沿線人口の減少など様々な社会環境の変化により、赤字運営を余儀なくされていましたが、近年では新型コロナウイルスの影響により、移動需要が一段と減少しました。一方で深刻な運転士不足による人員確保に向けた人件費の増加に加え、燃料価格やバスに関わる部品・資材の高騰などにより、あらゆるコストが上昇し、経営環境がさらに厳しくなっております。

また今後、デジタル技術を活用した情報発信などの利便促進や、カーボンニュートラルに向けたバスのEV化を推進していく中で、安全安心な輸送サービスを安定的に維持していくためには、運賃改定による収支改善が必要であると判断したため、今回申請を行ったものです。

## 2. 申請内容

- (1) 申請日 2023年5月22日
- (2) 実施予定日 2023年7月1日
- (3) 申請対象路線 一般乗合バス（路線バス）全路線  
（大田原エリア 200円均一区間、小山市内の路線を除く）
- (4) 申請上限運賃改定率 平均 24.1%（実施運賃の平均改定率は 18.0%）  
宇都宮市地帯制エリアの**実施運賃**は下表の通りです。  
郊外部エリア（距離に応じた運賃計算を行っている区間）の実施運賃は、現行運賃の 15%程度の値上げを予定しております。

### (5) 現行・申請運賃比較表

区間		区分	現行運賃	申請上限運賃 ※2	実施運賃 （予定）※3 【改定後運賃】
宇都宮市 地帯制 エリア	特別区間 ※1	片道運賃	170円	220円	190円
		通勤定期券 （1ヵ月）	7,140円	9,240円	7,980円
		通学定期券 （1ヵ月）	6,120円	7,920円	6,840円
	単地帯利用 A地帯 B地帯 C地帯	片道運賃	170円	220円	220円
		通勤定期券 （1ヵ月）	7,140円	9,240円	9,240円
		通学定期券 （1ヵ月）	6,120円	7,920円	7,920円
	2地帯利用 A～B地帯 B～C地帯 B～A～B地帯	片道運賃	220円	260円	250円
		通勤定期券 （1ヵ月）	9,240円	10,920円	10,500円
		通学定期券 （1ヵ月）	7,920円	9,360円	9,000円
	3地帯利用 A～B～C地帯	片道運賃	220円	300円	280円
		通勤定期券 （1ヵ月）	9,240円	12,600円	11,760円
		通学定期券 （1ヵ月）	7,920円	10,800円	10,080円
郊外部 エリア	初乗り	片道運賃	180円	200円	190円
		通勤定期券 （1ヵ月）	7,560円	8,400円	7,980円
		通学定期券 （1ヵ月）	6,480円	7,200円	6,840円

※1 特別区間は現在設定されておりませんが、宇都宮市地帯制エリアのうち宇都宮駅西口～東武西口・宇都宮東武間、市内循環線「きぶな」全線及び市役所循環線全線で新たに設定するものです。改定後の宇都宮市地帯制エリアは別紙をご参照ください。

※2 申請上限運賃とは、事業の経営に必要な原価に応じて算出されるバス事業者が収受しても良いとされる運賃の上限額です。

※3 実施運賃とは、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する、実際にお客さまから収受する運賃額です。実施運賃は現時点での予定であり、今後変更になる場合があります。

#### (6) 主要区間の運賃

区間		片道運賃		通勤定期券（1ヵ月）		通学定期券（1ヵ月）	
		現行	改定後（予定）	現行	改定後（予定）	現行	改定後（予定）
宇都宮駅西口	作新学院前	220円	250円	9,240円	10,500円	7,920円	9,000円
	帝京大学	350円	400円	14,700円	16,800円	12,600円	14,400円
	西川田東	410円	470円	17,220円	19,740円	14,760円	16,920円
	山王団地	620円	710円	26,040円	29,820円	20,160円	21,240円
宇都宮東武	真岡営業所	1,120円	1,290円	47,040円	54,180円	26,160円	28,200円
	益子駅前	1,270円	1,460円	53,340円	61,320円	27,960円	30,240円
石橋駅	真岡営業所	850円	980円	35,700円	41,160円	22,920円	24,480円
栃木駅	国学院前	240円	280円	10,080円	11,760円	8,640円	10,080円
黒磯駅	板室温泉	930円	1,070円	39,060円	44,940円	23,880円	25,560円
那須塩原駅	那須湯本温泉	1,020円	1,170円	42,840円	49,140円	24,960円	26,760円

※改定後の運賃はあくまでも予定であり、今後変更になる場合があります。

通学定期券は、通勤定期券より割引率が高い上、片道運賃が630円を越える区間についてはさらに割安になる「遠距離逓減」を導入しており、改定後も引き続き適用いたします。

（1ヵ月定期券の場合、通勤定期券は3割引、通学定期券は4割引になっております。また、3ヵ月定期券と6ヵ月定期券（通学のみ）はさらに割引率が高くなっております。）

### 3. 輸送人員および収支状況

		輸送人員	収支状況
実績年度（2019年度）		1,407万2,000人	△5億7,401万3,000円
平年度（推定）	運賃改定前	1,405万5,000人	△9億6,943万5,000円
	運賃改定後	1,369万2,000人	△3億5,649万2,000円

※平年度の輸送人員及び収支状況は、新型コロナウイルスの影響を受けなかった場合の推定数値です。

### 4. これまでの経営改善と今後の取り組み

関東自動車ではこれまで、ご利用状況などに合わせたダイヤの見直しなどを行ってきたほか、2018年10月に東野交通株式会社と合併したのを契機に、路線が重複していたエリアで再編を行うなど、運行の合理化及び効率化を図ってまいりました。また、営業所や販売窓口などの集約を行い、管理コストの削減を図ったほか、デジタル技術を活用した点呼の実施により、人員の適正化にも努めてまいりました。

今後もおご利用状況を踏まえた運行計画の見直しや路線再編を進めるほか、DX（デジタルトランスフォーメーション）による業務の改善及び生産性の向上を行い、さらなる経営改善に努めてまいります。

### 5. サービス向上への取り組み

関東自動車では、2017年3月に路線バスの運行状況が確認できる「バスロケーションシステム」を導入したほか、2021年3月には全国初となる地域連携ICカード「totra（トトラ）」の利用を開始し、同時に「Suica」「PASMO」など全国相互利用可能な交通系ICカードでの利用も可能となるなど、お客さまの利便性向上に努めており、さらに今後は「totra（トトラ）」による自社バス同士の乗継割引の実施を予定するなど、更なる利便向上を目指してまいります。

また、2023年5月22日付のプレスリリース（「精神障がい者への割引拡大について」）でお知らせした通り、精神障がい者の方への割引を2023年7月1日から開始し、身体障がい者と知的障がい者の方と同様に利用負担の軽減を図ります。

2023年度後半からは宇都宮市内の3営業所（築瀬・駒生・宇都宮）に電気バスを順次導入いたします。2029年度末までに関東自動車が宇都宮市内で保有する大型路線バス車両のおおよそ7割にあたる158台を電気バスに置き換える予定で、宇都宮市・栃木県とともに脱炭素社会に向けた取り組みを推進し、環境負荷の低減を図ります。

今後もお客さまの増加につながる各種施策を展開し、サービスの向上に努めてまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞  
関東自動車株式会社 路線バス部 担当：福島  
TEL：028-634-8133 FAX：028-632-6127  
E-mail：fukushima.munenori@kantobus.co.jp